

翔べ！  
世界へ

# 世界の人々の役に立つ 国際弁護士に



UWC卒業10周年同窓会で同級生と（96年6月19日、  
カナダのRace Rocksにて）

ネスをすることに慣れてきたものの、やはり法律やビジネス慣習について理解しにくいことが多いようで、その上言語の違いも重なり、なかなか物事がスムーズにいかないことがありがちである。

日本とアメリカの間にもう一つの橋を架ける弁護士として、私の愛する母国の日本人の皆様が世界のより良い、また、価値がある一員となつて活躍していくことの一助となり、そして、アメリカの人たちの日本に対する理解を深めることの助けにもなるよう、日々心がけている。

## UWCで学んだ 奉仕活動の重要性

UWCで奉仕活動の重要性を学んだので、ハワイでは、ホノルル日本青年会議所で理事等のボランティアをしている。これは、日系アメリカ人たちが日本の文化を継承し、また、社会の一員として貢献することを目的としている団体である。私も日本人であるので、そのような日系人たちの手伝いをしたかった。ここでも日系およびアメリカ企業がスポンサーとなり、さまざまな行事を支援してくれている。アメリカでは、多くの企業・個人レベルでこういったチャリティーやNGOに基金を出してサポートすることが社会の一員として当然であるとして、即実行しているのには感心する。

「弁護士になる」という小学生の頃からの夢・目的は達成した。「世界の人々の役に立つ」という目的の方は、毎日の弁護士の仕事や奉仕活動を通しての一步一步の前進であるが、UWCを通して自分に投資してもらった分、より世界に貢献する努力を自分なりに続けていきたいと思っている。

# 正論

## やがて中国の崩壊が始まる

——日本に覚悟と備えはあるか！

石原慎太郎vsゴードン・チャン

●電話で/0120-34-4646  
●FAXで/03-3241-4281  
産経新聞社へ

1 定価680円  
(税込み)  
月号

甦れ、日本の教師たち！  
教え子のために君は死ぬるか

小林よしのり  
vs木村貴志

小泉首相よ、教育基本法改正に蛮勇を奮え  
浅はか、ちぐはぐ社民党  
日本人傭兵が語るアフガン戦争の実態  
レーニンが確立したテロル制度の自業自得

中曽根康弘  
大月隆寛  
高部正樹  
金子甫/黒坂真/兵本達吉

## 島津朝子

しまづ あさこ

McCorriston Miller Mukai MacKinnon法律事務所弁護士  
(在ハワイ)

UWCピアソンカレッジ (カナダ、1984~86年)。90年5月  
米国ノートルダム大学卒業。93年5月サンタ・クララ・ロ  
ースクール卒業。98年4月より現職。

(UWC=United World College)



### 世界六〇カ国の生徒たちと 育てた友情は人生の宝

「アメリカで国際弁護士になって、  
世界の人々の役に立つ人になりたい」

この目標を小学生の頃から持っていた私は、是非、海外に留学したいと強く願っていた。留学といっても、できれば新しいことを吸収しやすく柔軟性のある若いうちに国外に出て、世界に出て通用する人間になる訓練を早く始めたかった。そこで知ったのが経団連が協力しているUWC奨学金制度だった。

世界中から高校生たちを集め、国際バカロレアの勉強だけでなく、コミュニティに対する奉仕活動をもカリキュラムに入れたバランスのとれた共同生活を通して、世界各国から来た生徒たちの国際相互理解を深めることを意図する学校制度である。その上、日本のさまざまな企業が経団連を通して奨学金を提供することにより、そのような素晴らしいチャンスをも日本に与えてくれる、という非常に感銘を受け、また、人生の目的を達成す

る第一歩となる、と思い応募した。幸運にも選考試験に合格し、UWCカナダ校であるピアソンカレッジで学べる機会を与えられることになった。

ピアソンカレッジでは、世界六〇カ国からの生徒たちと寝起きを共にし、深い意味での交流ができた。これは二度とない経験である。ここで育てた友情は、人生の宝だと思っている。こうして多くの友人に囲まれ、喜びの多い日々だったが、やはり、英語で学ぶということは大変だった。

学校で科目の勉強を行うには、まず、言語がわかるということが基本的前提だが、それを取り去られ、いくら日本で英語が得意な科目であったとはいえ、いざ英語による勉強となると歯が立たずに、相当の努力を要した。また、あらゆる面で日本での学校生活とは一八〇度違った環境の中で二年間を過ごすことで、精神面でも良い人生鍛錬になった。

### 米国で弁護士資格を取得、 そしてハワイへ

UWC卒業後、アメリカで弁護士

資格を取るためと、ようやくわかりかけた英語の訓練をするために、アメリカ、インディアナ州のノートルダム大学というカトリック系の堅実な大学に進学した。ここでは、またカルチャーショックを受けた。ピアソンカレッジでは、外国人がほとんどであったが、ノートルダム大学では、アメリカ中西部や東部からの学生が大多数で、少数民族はごくわずかであり、UWCがいかにかユニークな学校であったかを痛感した。

大学では国際関係と経済学を専攻することにした。ここでも、UWCでの経験を生かし、新しい文化の中で環境に適応し、アメリカ社会で活動していくための基盤をつくることのできた。大学を卒業後、カリフォルニア州にあるロースクールに進学し、カリフォルニア州およびハワイ州の弁護士資格を取得後、ハワイで弁護士活動を開始した。

現在は、ハワイ州ホノルル市の法律事務所で、主に土地法、ビジネス法、移民法そして民事訴訟を扱っており、日本の企業や個人のクライアントの件を任されることが多い。日本人は以前と比べ、アメリカでビジ